

新評論

2018
8・9
No.286発行所 © 新評論 2018年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振替 00160-1-113487 価格税抜

晩年の代表作「花嫁」(一九六八年)。この絵柄で一九九七年に発売された「ふるさと切手」は「花嫁切手」として親しまれ、いまも人気が高い。

魯迅、三島由紀夫、美輪明宏、黒柳徹子、瀬戸内寂聴も愛した
大正～昭和少女文化のスターにして乙女心の永遠の理解者の生涯乙女たちが愛した抒情画家
落谷虹児

鈴木義昭

◆ジャンル: 画家評伝

生誕120年記念

画家・詩人落谷虹児(ふたやこうじ) (一八九八・一九七九)は「花嫁人形」の作者として広く知られている。「金襴緞子の帯しめながら」で始まり、郷愁を誘う童謡「花嫁人形」に親しんだ人も多いだろう。あの詩を書いたのが虹児である。晩年に描いた「花嫁」は、「ふるさと切手」のロングセラーだ。

だが、虹児自身についてとなると、大正末から昭和にかけて活躍した美男の挿絵画家という印象のみが強い。日本画壇での位置づけとしては、竹久夢二に始まる大正ロマンから昭和モダンの大衆画家の系譜に連なる。しかし、人間・落谷虹児はそのような枠にはとうてい収まらない。彼には実に多彩な顔があり、生涯は山あり谷あり、謎も多い。画家として自らの志を貫き通しながら、激しい時代に翻弄され流浪と放浪をくりかえした。

足跡は、生誕地新潟県新発田市に始まり、新潟、東京、樺太、そして欧州航路でパリへと飛ぶ。挫折と葛藤の果てに自ら名づけた「抒情画」の世界の第一人者になるが飽き足らず、パリに渡りエコール・ド・パリの人となる。パリでは、後に「もう一人のフジタ」といわれるほどの活躍を見せる。サロン・ドートンヌなどに次々と作品が入選し、絵も売れた。

当時パリに学んだ日本人画家は少なくないが、在パリ時代からそのように高い評価を得たのは、藤田嗣治と落谷虹児しかない。時の歯車がわずかでも異なれば、世界的な日本人画家がもう一人誕生していたに違いない。そう想わせる深さと鮮やかさ、清冽な魂が込められた作品群。乙女の夢と憧れを優しくはかなく描き、乙女たちに最も愛された画家だった。魯迅や三島由紀夫ら、虹児への賛辞を惜しまなかった文人も多い。

戦争の暗い時代に童画を描き続けたことから、戦後は絵本や少女漫画、アニメーションにまで多大な影響を及ぼした。晩年も死の直前まで、自ら信じる美と愛の世界を探索し続けた。早世した母への想い、二人の妻への愛情を胸に、さすらいの果てによく見つけた安息の地で描き続け、なおパリへの夢を見続けた半生だった。

生誕一〇〇年の年に取材を始め、虹児を巡る旅は続いた。今年で生誕一二〇年・没後四〇年、いまだ謎多い不世出の抒情画家・落谷虹児の全貌を多くの読者に知ってほしい。(すずき・よしあき)

ISBN978-4-7948-1021-2 6月刊
四六上製 予二七二頁 カラー口絵八頁

予二二〇〇円

著者 1957年東京都生まれ。ルポライター・映画史研究家。18歳より竹中労に師事する。『夢を吐く絵師 竹中英太郎』(弦書房)、『風のアナキスト 竹中労』、『若松孝二 性と暴力の革命』(現代書館)、『仁義なき戦いの“真実” 美能幸三 遺した言葉』(サイゾー) など著書多数。



愛読する「街道をゆく」シリーズの1冊を片手に、司馬遼太郎記念館（東大阪市）を訪問。敷地内に建つ書齋を窓越しにのぞき見て「ここであの名作の数々が…」と感慨ひとしお。

「半生」か、それとも「反省」か——40年余を書店人として過ごした生粋の「本好き」が綴る本と読書の愉楽の真髄。

書店人のはんせい

本はエンターテインメント

人見廣史

◆ジャンル：読書・書誌エッセイ

少年時代から本が好きだったこともあり、高校を卒業後、都内の書店に四四年間勤めた。書店人としてのはんせい（半生）は、まさに「あっ」という間に過ぎた。店舗では、人文書をはじめとして専門書を担当したほか店長も務めたが、本の品揃えばかりに意識が向いてしまい、顧客である読者の顔が見えていなかった。外商部ではその反省を少し活かしたことで、長く勤められたようにも思っている。はんせい（反省）と言え、もう一つある。長らく本に携わってきたにもかかわらず、本がどのようなものかについて、これまでまったく意識をしてこなかったのだ。今回、本書の執筆がきっかけとなって、印刷所や製本所の現場を見学できたことは最高の喜びとなった。なぜなら、本を読む姿勢が明らかに変わったからだ（詳しくは本書「エピソード」で）。

さて、本書の執筆を思い立ったのは、「本は知識を高めるもの」と考えている人たちに、「本はエンターテインメントだ！」と伝えたかったからである。本が

もつ娯楽性を無視して、「本＝勉強」と定義づけるほど悲しいことはない。袖を着けて「本を読むべきだ」と高みから言うのではなく、本を読む楽しさ、読書が与えてくれる幸福感、本によって体験できるそれまで知らなかった世界などを、私なりのライブ感をもって著した。

スマホが生活の中心にある現代社会では、これまで以上に時間が早く経過し、氾濫する情報に操られているような気がすることも多い。そんななか、「本を読む時間」だけは昔と変わらない。時間を止めてくれるような感覚、これを私は大切に「読む」で過ごしてきた。本を読むことが目的ではなく、充実した時間を過ごすために本を読んできたようにも思える。

「ページをめくると新たな扉が開く」——こんな比喩が楽しめるのも、読書にまつわる魅力かもしれない。（ひとみ・ひろし）

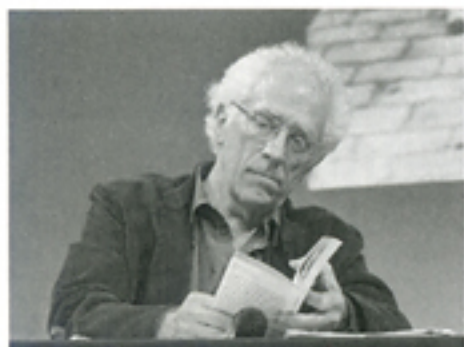
ISBN978-4-7948-1101-1 9月刊

四六並製 予二五六頁 予二〇〇〇円

好評刊
劇場としての書店

二〇〇〇円

著者 1953年、埼玉県浦和市に生まれる。1972年、埼玉県立浦和商业高等学校卒業後、都内の書店（店舗・外商部）に勤務し、2016年4月に退職。趣味は読書、マラソン、スポーツ観戦、映画・音楽鑑賞、居酒屋巡り。



2011年9月20日、ストラスブールの秋の恒例文学イベント「理想の図書館」に出席した著者（撮影：Ji-Elle）

「どのように生きるべきか」を知ることが困難な時代、知性と感性を失わず、かつ誠実に生きてゆくためには…

屈服しない人々

ツヴェタン・トドロフ／小野 潮 訳

◆ジャンル：世界近現代史・人物列伝

かつて遠い時代に「聖人伝」という種類の書物が存在した。神を求めて、求道的な人生を送った人々の人生を、彼らの過ちにも触れつつその道程を示すことによって、迷える衆生に神へと至る道、聖なるものへと達する道を示すことが、そうした書物の役割であった。

神なき時代において聖なるものはあるのだろうか。抽象的な思考によって聖なるものへたどりつくことは、そもそも信仰など最初から持ち合わせない人間にとっては至難のことだろう。しかし、芸術作品に接して、そこに何か聖なるもの、何か尊いもの、何か超越的なものを感じるといふ体験は現代人にとっても失われたものではなく、むしろ人々がそうしたものの向かう大きな動機となっていると言ってよいだろう。そして、ある人々の人生もまた、そのような賛嘆の念を多くの人間に抱かせる。そうした人々の人生自体が一個の作品としてみごとなものであり、尊いものであることが、それに接した人々によって感得されるのである。

本書で取り上げられるのは、戦争、全体主義、人種差別といった二十世紀に人類史上最大規模の厄災となった事象に直

面させられつつ、そのような賛嘆を誘う人生を生きた人々、たとえば旧支配者である少数派の白人と、彼らから長年にわたって差別を受けてきた多数派の黒人のあいだに内戦が起こっても不思議はなかった南アフリカにおいて、その両者への深い理解と共感によって、同国を和解の地へと変化したネルソン・マンデラの人生である。彼らは、絶望に陥りかねない道程を歩みながら、自らの外部からやってくるさまざまな困難に立ち向かうとともに、そうした困難をもたらすと思われた「敵」に対する憎しみのような、自らの内部に巣くう「悪霊」にも屈しない術を知った人々であった。

（おの・うしお 近代フランス文学）

ISBN 978-4-7948-1103-5 9月刊

四六並製 予三二二頁 予二七〇〇円

【本書に登場する8人】アウシュヴィッツで亡くなったオランダの若いユダヤ人女性エティ・ヒレスム、フランスの人類学者ジェルメーヌ・ティヨン、ロシアの二人の作家バステルナークとソルジェニーツイン、人種差別と闘った南アフリカのネルソン・マンデラとアメリカのマルコムX、パレスチナの人権擁護を続けるイスラエル人ダヴィッド・シュルマン、アメリカ政府の違法な情報収集活動を暴露し、国家反逆罪・機密情報漏洩罪に問われているエドワード・スノーデン。

著者 Tzvetan TODOROV (1939-2017) ブルガリア出身のフランスの文芸理論家、思想史家。当初は構造主義的文学理論を代表する論者として知られたが、世界の中の人間を直接的に論じる著述を、他者論、民主主義論、絵画論といった幅広い領域をフィールドとして次々と発表し、過去と対話しつつ現代を思考する姿を見せる。



見るだけでワクワクしてくるキッズスペース！アムステルダム中央図書館には、子どもが楽しみながらさまざまな本に親しめる空間が設けられている。

えっ、公共図書館が有料!? 実はそれには深い理由があった——
気鋭の研究者による西欧高福祉国のライブラリー文化見聞記。

オランダ公共図書館の挑戦

サービスを有料にするのはなぜか？

吉田右子

◆ジャンル：図書館学／公共サービス論

筆者は普段、北欧の公共図書館を研究対象にしているのだが、ずっとオランダの公共図書館が気になっていた。ノルウェーに調査に行った折のことである。小さな町の図書館司書に面会したとき、開口一番、次のように尋ねられたのだ。「日本では、図書館サービスは有料ですか？」

日本の公共図書館サービスはすべて無料で利用できるかと答えると、司書は心底ほっとした様子で「ノルウェーもです」と言った。そして顔を曇らせながら、「でもね、オランダでは課金するんですよ」とつけくわえた。

そう、オランダでは、公共図書館サービスが有料なのである。

近代公共図書館は、「無料」「公開性」「自治体による直接運営」という三つの理念を拠り所としてきた。公的予算が縮減し、新自由主義の影響を受けた市場主導型の文化政策が強まるなか、自治体直営の原則は揺らぎつつある。それでも最初の二つの条件、すなわちすべての住民がいつでも無料で公共図書館を利用できるという点については、公共図書館制度が整備されたほとんどの国で、基本的な人権に関わる文化保障の観点から維持されて

いる。

オランダに行くまでは、「いかなる理由があるにせよ、公共図書館サービスへの課金が許されてよいはずがない」と思っていた。無料だからこそ公共図書館と呼べるのではないかと。こんな思いがあったため、訪ねる図書館すべてで、司書や職員に「なぜ課金するんですか？」と片っ端から聞いて回った。

充実した公共サービスで注目されてきたオランダで、いったいなぜ図書館は有料なのか。読者のみなさんにもぜひ本書を通じてその理由を知ってもらい、公共図書館という存在を考えるきっかけにしてみたいと願っている。

(よしだ・ゆうこ)

ISBN 978-4-7948-1102-8

6月刊

四六上製 予二七二頁(カラー口絵八頁)

予二五〇〇円

好評刊

読書を支えるスウェーデンの公共図書館

(文化・情報へのアクセスを保障する空間)

小林ソーデルマン淳子・吉田右子・和気尚美 二〇〇〇円

文化を育むノルウェーの図書館

(物語・ことば・知識が踊る空間)

マクヌセン矢部直美・吉田右子・和気尚美 二八〇〇円

デンマークのにぎやかな公共図書館

(平等・共有・セルフヘルプを実現する場所)

吉田右子 二四〇〇円

著者 筑波大学図書館情報メディア系教授。主著に『デンマークのにぎやかな公共図書館』(2010年)、『読書を支えるスウェーデンの公共図書館』(小林ソーデルマン淳子・和気尚美との共著、2012年)など。



長井の壮麗な「散居村」(広大な田園地帯に一軒ずつ民家が散在する集落形態)。富山県礪波、島根県斐川と合わせ日本三大散居村と呼ばれる(提供:長井市)。

訪問事業者約70件、東北の壮麗な田園都市の先駆的実践を精査。幾多の課題に直面する全国の「地方小都市」への渾身のエール!

農工調和の 地方田園都市

企業城下町山形県長井市の中小企業と農業

関 満博

◆ジャンル:地域産業

日本には人口三万人前後の「地方小都市」が少なくない。その多くは現在、人口減少・高齢化・地域産業の不振に悩まされている。山形県長井市、藩政時代は米沢藩の一角にあり、最上川上流の最後の舟着場として発展してきた。しかし明治以降、物流が陸上に移行し、東北内陸の条件不利地域を形成してきた。

そのような状況のもとで、戦前期には土地一〇万坪を無償提供して東芝系のコンデンサメーカー「マルコン電子」を誘致、戦後はTV市場の拡大の中で従業員二〇〇〇人規模の事業となり、以後、長井はマルコン電子の企業城下町として発展した。ただしその後マルコン電子はコンデンサ大手の日本ケミコンに譲渡され、現在では従業員数約二二〇人にまで縮小している。

農村地帯に近代工場が展開し、就業機会が広がる、多くの農家は兼業となり、また作物としては機械化の体系ができていく。水稲に傾斜していく。長井でも農家の大半が出稼ぎから解放され、兼業・共働き・休日の水稲栽培により、経済的な豊かさを獲得していった。

他方、マルコン電子の縮小により、製造業の出荷額と従業員数は激減、地域産業に暗雲が広がる。だが戦後の産業化の中で、域内に独立創業企業が多かったという特質もあり、新たに誘致されてきた都会の機械金属系中小企業と共にレベルの高い産業集積を形成することにもなった。地域産業振興の将来を考える上で、この機械金属工業集積に期待される点は少なくない。

農業に関しては、就業機会を失い高齢化した農業者の多くは離農し、むしろ専業農家による大規模受託生産、畜産などの複合経営への動きが顕著にみられる。これは長井市が日本農業の構造転換の先端に立っていることを意味する。

こうして長井市は、東北内陸の条件不利都市でありながら、農業と工業が調和した持続可能で豊かな未来志向型の田園都市を目指し前進している。本書ではこれを日本の地方小都市の未来を映す「長井モデル」として、その先進的な取り組みに学ぶ。

(せき・みつひろ)

ISBN978-4-7948-1099-1

8月下旬刊

A5上製 五〇四頁 七二〇〇円

著者 1948年生まれ。明星大学経済学部教授、一橋大学名誉教授。博士(経済学)。代表作『東日本大震災と地域産業復興 I~V』(シリーズ完結)のほか、『「地方創生」時代の中小都市の挑戦』『北海道/地域産業と中小企業の未来』など著書多数。

猫たちとニューヨーク散歩

画・久下貴史／文・ジャパン・アーティスト株式会社

〔久下貴史作品集2〕「マンハッタン」

「ナイズ」で著名な画家と猫たちの

温もり溢れるNYほのぼの生活。

B5並製 二〇〇頁 三八〇〇円



ブラボー！大雪山

写真・文・大塚友記／写真文化首都「写真の町」東川町編

四季折々の美しく雄大な自然を堪能

できるだけでなく、大雪山と「写真の町」

への旅のガイドとしても役立つ写真集。

B5並製 二〇〇頁 カラー三〇〇〇円



よもやま花誌

松本仁二著／新部由美子画

〔植物とのふれあい五〇年〕私たちに

季節を伝え、幸福をもたらしてくれる

50種の身近な植物を挿画入りで紹介。

四六並製 二八〇頁 二二〇〇円



職業は忍者

野人流忍術主宰・甚川浩志

〔激動の現代を生き抜く術、日本に

あり！〕アニメやアクションにはない現代

版忍術教育が日本と世界を変える！

四六並製 一二四頁 二〇〇〇円



ある子ども

ロイス・ローリー／島津やよい訳

〔ギヴァー4部作〕ついに完結！変化

の契機となった赤ん坊とその母の旅路の

果て、善と悪の最後の闘いがはじまる。

四六並製 三八四頁 二四〇〇円



ユーカラ邂逅

天草季紅

〔アイヌ文学と歌人小中英之の世

界〕近代短歌とアイヌ世界の往

還が奏でる「語りのコスモス」。

四六並製 三六八頁 二七〇〇円



植民地化の歴史

マルク・フェロー／片桐 祐訳

〔征服から独立まで（二二〜二〇世紀）

数百年におよぶ「近代の裏面史」

から、現在の収奪構造を読み解く。

A5上製 六四〇頁 六五〇〇円



関門港の女沖仲仕たち

林えいだい

〔近代北九州の一風景〕近現代を支

えた「沖の女たち」の強く、烈しく、美

しき生。一五〇点の貴重な写真を集成。

菊並製 一九二頁 二〇〇〇円



スーパーマンの誕生

遠藤 徹

「KKK・自警主義・優生学」アメリカを象徴するアイコンの起源とは。米国の隠蔽された暗部を読み解く。

四六並製 二二四頁 二〇〇〇円



『出版ニュース』紹介
ISBN978-4-7948-1066-3

バットマンの死

遠藤 徹

「ポスト9・11のアメリカ社会とスーパーヒーロー」9・11後の「呪われた国家」が抱える苦悩を解説。

四六並製 二二二頁 二四〇〇円



好評刊
ISBN978-4-7948-1090-8

世界を治療する

ポール・ファーマー／光橋 翠訳

「ファーマーから次世代へのメッセージ」世界でもっとも有名な医師の言葉があなたの人生を変える！

四六並製 五二〇頁 四六〇〇円



『週刊東洋経済』書評
ISBN978-4-7948-1049-6

グローバル・ジハードのパラダイム

ジル・ケベル／アントワネット・義江真木子訳

「パリを襲ったテロの起源」ウェブ時代のテロリズム生成過程とその背景を多角的に分析。

四六並製 予四一六頁 三六〇〇円



『週刊ポスト』書評
ISBN978-4-7948-1073-1

絶対平和論

菊地昌実

「日本に戦ってはならない」明治維新以来の日本の歩みから「現実的知性」のありかを考える。

四六並製 二二四頁 一五〇〇円



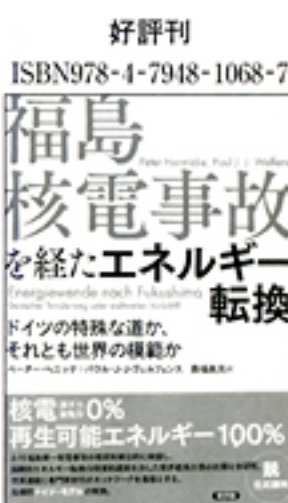
『北海道新聞』紹介
ISBN978-4-7948-1084-7

福島核事故を経たエネルギー転換

PP・J・J・ケル／ヴェルフェニス／壽福眞美訳

「ドイツの特殊な道が、それとも世界の模範か」「エネルギー転換」の現実的筋道を示した世界最高水準の比類なき研究。

A5並製 三六八頁 三八〇〇円



好評刊
ISBN978-4-7948-1068-7

フェアトレードタウン

渡辺龍也編著

「誰も置き去りにしない」公正と共生のまちづくり。理論と先駆例を紹介する世界初の入門書。

四六並製 三二〇頁 二五〇〇円



『朝日新聞』紹介
ISBN978-4-7948-1085-4

現代社会用語集

入江公康

博学多識の社会学者がおくる、「あたりまえ」を問いかえす「概念の武器」としての決定版レキシコン。

四六変形並製 二〇八頁 一七〇〇円



『信濃毎日新聞』他紹介
ISBN978-4-7948-1070-0

スウェーデンが見えてくる

森元誠二

「ヨーロッパの中の日本」 元スウェーデン大使が語るこの国の魅力、光と陰、日本との知られざる関係。

四六並製 二八八頁 二四〇〇円

『日経theSTYLE』紹介
ISBN978-4-7948-1071-7

オルグ！オルグ！オルグ！

本田一成

「労働組合はいかにしてつくられたか」 労組仕掛け人のストーリーを追うと、「ロマン」が見えてきた！

四六並製 三八四頁 二八〇〇円

『出版ニュース』紹介
ISBN978-4-7948-1088-5

スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む

ヨラン・スバネリッド／鈴木賢志・編訳

「日本の大学生は何を感じたのか」 投票率85・8%の国では、小学校社会科で何を教えているのか？

四六並製 二八〇頁 一八〇〇円

「久米宏ラジオなんですけど」紹介
ISBN978-4-7948-1056-4

スウェーデンに学ぶドキュメンテーションの活用

白石淑江編著

「子どもから出発する保育実践」 子どもの権利の先進国発、「子どもの思いや考えから出発する保育実践」。

A5並製 二五六頁 二四〇〇円

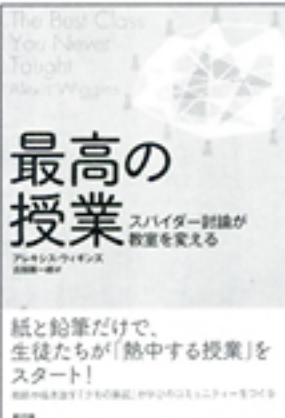
好評刊
ISBN978-4-7948-1091-5

最高の授業

A・ウィギンズ／吉田新一郎訳

「スパイダー討論が教室を変える」 紙と鉛筆さえあれば今日から始められる！シンプルかつ画期的な授業法。

四六並製 三六〇頁 二五〇〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1093-9

成績をハックする

S・サックシュタイン／高瀬裕人・吉田新一郎訳

「評価を学びにいかす10の方法」 評価や教育の概念を根底から見直し、「自立した学び手」を育てる実践ガイド。

四六並製 二四〇頁 二〇〇〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1095-3

増補版「考える力」はこうしてつける

J・ウィルソン・ジャン／吉田新一郎訳

初版以来、教員を中心に多くの読者を得てきた良質な教育書の待望の最新版。この一冊で授業が変わる！

A5並製 二三四頁 二〇〇〇円

好評刊
ISBN978-4-7948-1087-9

増補版作家の時間

プロジェクト・ワークショップ編

「書く」ことが好きになる教え方・学び方【実践編】「書くスキル」を身につけるのを支える画期的な実践！

A5並製 二四〇頁 二二〇〇円

最新刊
ISBN978-4-7948-1098-4

隅谷三喜男賞
受賞作

『非戦・対話・NGO』出版記念イベント 第2弾

自発的ボランティア、社会運動の行方を考える

二〇一八年六月二二日、『非戦・対話・NGO』国境を越え、世代を受け継ぐ私たちの歩み』（二〇一七年刊行）が「国際ボランティア学会第一四回隅谷三喜男賞」を受賞したことを記念して、「国際ボランティア学会」と本書編集委員会との合同トーク・イベントが聖心女子大学聖心グローバルプラザにて開かれた。



会場と熱心に対話する登壇者たち。参加した学生さんたちからは「ボランティアよりも経済力を身につけたい」、「（ボランティアが敬遠される理由として）熱い言葉を吐くのが恥ずかしい、一直線の精神はよいが、そこに恐怖感を抱く人も多いようだ」との声も。

「HISENについて自由に語ってみよう！」ボランティア・平和・対話」というタイトルで催された本企画では、受賞式典が行われた後、中村安秀・国際ボランティア学会会長による記念講演（第一部）が行われた。国際ボランティア学会の今まで取り組みや故・隅谷三喜男先生の理念が反映された「隅谷三喜男賞」についての紹介なども講演内容に含まれていた。

続く第二部では、本書編集委員を務めた金敬黙の司会のもとで、畑野研太郎さん（公益社団法人日本キリスト教海外医療協力会会長）、阿部研一さん（国際ボランティア学会理事）、渡部朋子さん（NPO法人ANT・Hirosh

i ma代表／本書共著者）、野川未央さん（NPO法人A PLASTAFF／本書編集委員）とフロアーの参加者との間で①日本的な文脈を考慮した上で「非戦からHISENへ」という取り組みの必要性（HISENとは、「非戦」を世界の共通言語へ）との思いを込めた言葉、②ボランティアの（脱）政治性、③メディアと教育による世代間の乖離などについて活発な議論が行われた。

細かい内容はここでは省略するが、フロアーの若者たちから「ボランティアよりもまずは自分のことをしっかりさせたい」「ボランティアに関わっているが恥ずかしくて人前ではいえない自分もいる」「宗

教ヤッていると思われがち」という「衝撃的な」けれども真摯に耳を傾けるべき課題も確認された。

出版後二回目のトーク・イベントであったが、胸に刺さった若者たちからの率直な声がいまだに耳元で鳴り続けている。三回目に向けて取り組みたい。

（早稲田大学教員 金敬黙）

国際ボランティア学会と「隅谷三喜男賞」同学会は阪神・淡路大震災を機に一九九八年設立。同賞は初代会長・隅谷三喜男（一九一六―二〇〇三）を顕彰し、ボランティア学研究を奨励するもの。

非戦・対話・NGO

大橋正明・谷山博史・宇井志緒利
金敬黙・中村給乃・野川未央

（国境を越え、世代を受け継ぐ私たちの歩み）

A5並製 三三〇頁 二六〇〇円

隅谷三喜男賞受賞
ISBN978-4-7948-1081-6



話題書点描「ぼくらの社会だし教育なんだぜ!!」の巻

◆新聞・雑誌・ラジオやインターネットメディアで高評価をいただいた話題書をご紹介します。

▼「社会」は他人事じゃない

小社の最近のいちばんの話題書といえば、なんといっても超ロングセラー『あなた自身の社会』（川上邦夫訳）。北欧の教育先進国スウェーデンの中学校社会教科書を翻訳したもので、「社会とは自分たちがつくるものであること」がわかりやすい言葉で説かれています。この本が刊行後20年を経たいま、再び注目を集めています。

悲しいことにきっかけは極度の政治不信でした。「国民主権」とは名ばかりで、私たちには何もできないのか? オールウェルも真っ青



の暴政が次々と現実化し、幾度めかに麻痺と諦念が蔓延し始めたとき、ある人がSNSで「本当に面白いから読んでみて」と本書を推奨。これが瞬く間に拡散し、「諦めちゃいけない、もういちど」わたしたちの社会を直そう」というメッセージとなって、ネット上に響きわたりました。

それからほどなくして、作家の高橋源一郎さんが本書に目をとめます。NHKラジオ「すっぴん!」の名物コーナー「源ちゃんのゲンダイ国語」で「理想の教科書」として内容を詳しく紹介。「語りかけてくるような口調で、まるで優れたエッセイを読んでいるような教科書を読んでもらえるなんて」と絶賛(5/18放送)。高橋さんはその後、UCカードの会員誌「てんとう虫」(7・8月号)でも本書をとりあげ、「カッコいい教科書」「日本の中学もこれを採用して」と書いてくださいました。

続いて5/25には「読売中高生



近年は「ぼくらの民主主義なんだぜ」(朝日新書)など、「壊れた日本社会に絶望しないための本」でも知られる高橋氏。ご高評多謝! (写真は番組公式サイトより引用©NHK)

新聞」が「考える力をつけさせてくれる一冊」とこれまた高評価。国家、民主主義、法と権利、選挙、社会保障、犯罪と暴力など、私たちがとりまく制度と現象をもっともつとつこく掘りさげて考え、対話し、「私たち自身の社会」としていくために必携の一冊、このリバイバルを好機にぜひ一読ください。

▼「教育」だって私たち自身のもの!

つねに子どもの目線で書き続ける児童文学作家ロイス・ローリーの代表作にして、一二〇〇万部超の世界的ベストセラー「ギヴァー」記憶を注ぐ者。四部作の完結編『ある子ども』(p.6)、じわじわと感動の輪が広がっています。

シリーズを大切に売り続けてくれている書店人・東野徳明さん(みどり書房TSUTAYAイオンタウン郡山店)は、「たとえようのない傑作」と讃えてくださいました(4/24放送、ふくしまFM「インプレス」今週の一冊)。

日本最大級の読書コミュニティサイト「読書メーター」にも高評価が並びます。「ヒロインがとても素敵で、めげず諦めず、困難に毅然と立ち向かう姿に見とれてしまう。ここまで読んできて良かった」「子どもたちが自身で考え、立ち向かうことが大事だというメッセージが込められていて、教育本にもなっているとがすごい」など。エンタメとして面白くて、説教臭さが微塵もないのに教育的って確かにすごいです!

「社会」も「教育」も、上から与えられるものじゃない。人の生活があつて、いろんな営みがあつて、そこから自然にたちあがってくるはずのもの。今回ご紹介した二冊への反響からそれを教わりました。とりあげてくださった皆様に感謝申し上げます。

(編集部)

本を売る

来た、見た、買った？

先日、いずれ買うつもりだったあるコミックスが品切になっていて、作者自身のtweetで知った。買いそびれてしまった。つい最近出たような気がしていたが、発行は五年も前だった。

この作家は別の作品で漫画をテーマにしている。その作品に、プロ漫画家のアシスタントが、敬愛する先生を守るのなら自分の腕をどれだけ使っても構わない、と言う場面がある。

表現者はみな腕一本で生計を立てている。商品化されたものを買ってもらって初めて飯が食える。前記アシスタントのように作品のクオリティを上げる手伝いができない一般読者は、バトロネージュするしかない。かといって今の時代、資産家でもないかぎり大規模な支援はできない。我々いちファンにできるのは、その作家の本を買うことだけである。

それを怠った結果が、今回の「買いそびれてるうちに品切に」という事態である。何度も経験しているくせに、また同じ失敗を繰り返してしまった。

売る立場としては、露出を続けることが応援になる。毎日新たな商品が続々入荷するから、スペースの確保に苦労する。人気の棚から、売れ

ない（けれど売りたい）作品を泣く泣く引き抜き、かわりに新刊を差し込む。引き抜いた一冊もできれば返品せずに、ほかの置き場所を探して何とか残す。

売りたい一冊が売れた時の喜びを味わうために、その何十倍もの量の商品の陳列に時間と労力を費やすのが本屋の仕事の中心ではないだろうか。そんなことを、この欄への寄稿のお話をいただいた時に感じてしまった。

仕事だから楽しいことばかりではないのだけれど、どれだけ楽しみを見つけられるかでモチベーションも変わってくるだろう。

だから今日も、売場を触って、売りたい気持ち表現していこうと思う。それだけが、本屋にできる表現者への応援の仕方なのだから。

お客様には、「発行日に関係なく、初めて出会った本がその人にとっての『新刊』である」とこと、「出会った時に買っておかないと二度と手に入らないかもしれない」ことを頭の隅に置いて、売場を見に来てもらえたら有り難い。気になる本と出会えるかもしれない。出会えなかったとしても、タダでできる暇潰しである。「暇潰しに寄ったけど、面白そうなお本がないから買わない」というのももちろんかまわない。とにかく、世間の評価ではなく、自分の目で見て、気になる本がないか探しに来てほしい。

葦屋書店熊本三年坂 紅智之

本誌表示価格はすべて税抜です。

書評日誌(5・25~7・2)

書評 紹介 関連記事

5・25 ⑧丸善ジュンク堂書店美術書カタログ2018 defrag2『ハイン 地の果ての祭典』『骸骨の聖母サンタ・ムエルテ』

7・2 ④毎日新聞『ユウカラ邂逅』
7・8月号 ⑧てんとう虫(UCカード
会員誌)『あなた自身の社会』
(高橋源一郎) ▶p.10

7/上 ⑧出版ニュース『オルグ! オルグ! オルグ!』

6月の増刷

たった一つを変えるだけ

〔クラスも教師も自立する「質問づくり」〕

D・ロススタイン+L・サンタナ/吉田新一郎 訳
6刷 2400円

大好評2刷
ISBN978-4-7948-1067-0



ハイン 地の果ての祭典
アン・チャップマン/大川豪司訳
〔南米フエゴ諸島先住民セルクナムの生と死〕 稀有な身体彩色で名高い通過儀礼を詳説。写真50点。
A5上製 二八〇頁 三〇〇〇円

『ラティーナ』書評、
ISBN978-4-7948-0892-9



〔現代メキシコのスピリチュアル・アート〕
メキシコの最新アイコン生成の現場を写真! (写真二〇〇点・カラー口絵付)
A5並製 一七六頁 二〇〇〇円

骸骨の聖母サンタ・ムエルテ

加藤薫

本を読む

あなた自身の社会

意義のある刊行、有り難う。孫のために買いました。今の日本の教育には失望することが多い。子どもたちが「人間力」をつけるための教育がなされていない。思考力、判断力、いずれも欠いたまま年だけくっついていっている。「だれでも良かった」式の無差別殺人・傷害事件、ネットで知り合った同士の犯罪が横行する遠因もそこにあるのでは？ 日本には成熟した思考を育てる力はどう無いのでしようか。教育者や学者の皆さん、立ち上がってください！ 日本にもまだ可能性が残っていると思いたい。

(広島市 主婦 香川節子 72歳)

本来「用語集」というものは、字引の類に近く、コトバの意味をただちに把握したいという性急さに応える役割を担っている。もちろん本書もそのような機能を備え

てはいるが、性急だけで取り組んでほしくない。むしろ字間行間に秘められている、コトバの仕組みやコトバの連結を問い返すような仕掛けをじっくり読み込むことに留意すべきである。まずは手にとってみてほしい。(神戸市 まちづくりプランナー 山本敬二)

骸骨の聖母サンタ・ムエルテ

主にメキシコ・チアパス州の現代美術を研究しています。現代メキシコの民衆芸術という視点から時代精神を活写していて、大変有意義な好著です。(横浜市 美術評論家 赤津侃 58歳)

好評刊

飯田線ものがたり

(川村力ネトがつないだレールに乗って)
太田朋子・神川靖子 二〇〇〇円

現代社会用語集

菅原浩志案／榎辺 勤著 一六〇〇円

新しい力

(「私たちが社会を変える」)
共同通信社編 二四〇〇円

『写真記録』これが公害だ

(北九州市「青空がほしい」運動の軌跡)
林えいだい 二〇〇〇円

編集部から

西日本豪雨で避難中の皆様の安全と生活基盤の一刻も早い復旧を心より祈念申し上げます。▼中原淳一、松本かつぢと並ぶ超人気画家にして時代の寵児。その波瀾に満ちた生涯を辿る『乙女たちが愛した抒情画家 落谷虹児』。女性への敬慕の念に満ちたモダンながら温もりのある絵柄、精緻な筆づかいと妙なる色彩は大正・昭和の少女たちを熱狂させました。女優の渡辺えりさん、漫画家の里中満智子さんなど著名人のファンも大勢います。自身画家を敬愛してやまない著者の情熱溢れる取材と豊富な図版でその創作の秘密に迫ります。目玉の一つは、東映初のカラーアニメ製作を総合指揮したさいの詳細な経緯が明らかにされていること(今春惜しまれつつ逝った高畑勲さんも虹児から大きな影響を受けた一人です)。ご期待下さい！

営業部から

▼『フラボー！大雪山』刊行記念著者スライド&トークショーのお知らせ
東川町在住の写真家アウトラドガイドの大塚友記氏が「大雪山とその麓のまち東川町の魅力」を大公開！地元居住者ならではのオススメスポットや宿の紹介など、耳寄り観光情報も満載。デジタル一眼レフカメラやドローンで撮影した迫力満点の映像もアリ！この夏、大雪山を目指す方はお見逃しなく！
(協力) ICI 石井スポーツ登山本店/主催: 新評論 (日時) 9月1日(土) 14時(場所) ICI club 神田6F アースプラザ(定員) 50名 (先着順・入場無料) *お問い合わせは新評論営業部まで。
▼日販帳合の書店様へ.. 9月末常備入替のお知らせ
今年度のセット常備の搬入日は9月12日(水)です。選択常備はご回答いただき次第随時出荷させていただきます。

SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。
入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。
ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。